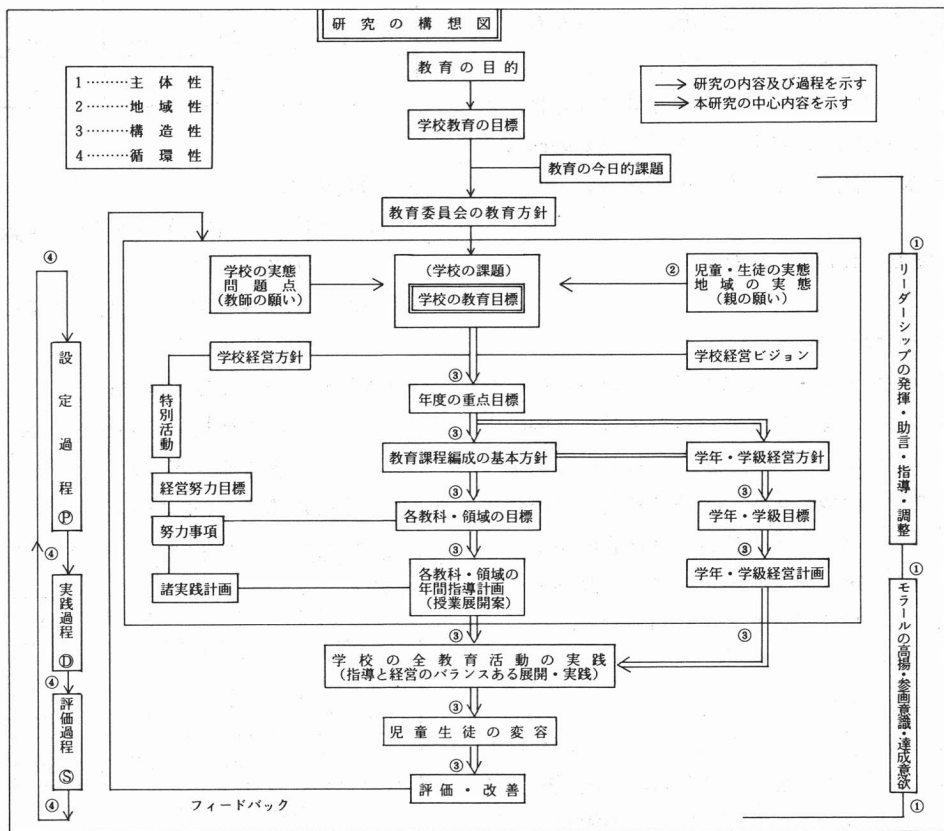


に機能するためには、教育目標の設定から達成までの過程が、P-D-Sの循環過程をふまえて設定されていなければならない。

教育目標の具現の実態を適切に把握し、より具代的な方策を立てて実践するためには、教育目標の循環過程を吟味し検討していく必要がある。以上のような研究視点をもとに、研究構想を別表のように確立した。3年間にわたる研究の方向

性としては、研究の趣旨でも述べたとおり、学校の教育目標を教育課程にいか位置づけるか、即ち研究視点3の「構造的」に焦点をあてて研究を進めていく方針である。それは、学校の教育目標具現化の課題は、それぞれの学校における教育課程の編成と展開にこそ具体化されなければならないことを、「教育課程の経営に関する研究」で明らかにされたことによるものでもある。



3 研究の計画

第1年次(昭和59年度)	第2年次(昭和60年度)	第3年次(昭和61年度)
1 研究構想の確認	1 学校の教育目標の意義・性格	1 教育目標と教育課程の編成
2 研究の基盤となる理論研究	2 学校の教育目標と学校経営	2 教育目標と教育課程の実施
3 アンケートによる実態調査	3 研究協力校からの資料収集	3 教育目標と教育課程の評価
① 学校の教育目標の設定過程	① 第1年次4①の整理(小学校)	4 研究協力校からの資料収集
② 学校の教育目標の実践過程	② 第1年次4①の収集(中学校)	① 第2年次3②の整理(中学校)
③ 学校の教育目標の評価過程		
4 研究協力校からの資料収集		
① 学校の教育目標の具体化に関する実践資料・事例の収集(小学校)		

研究紀要発行